

住吉さん



令和五年九月吉日 大願寺林御文庫謹

御文

御文

御文庫
大願寺林
住吉大社
境内
安全

ご挨拶



この度、神武磐彦前宮司の勇退に伴い、令和八年四月一日付にて、住吉大社の宮司を拝命いたしました。もとより浅学非才の身でございますが、御祭神の御加護のもと、御神徳の更なる宣揚に努める所存でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

古来住吉大社は、御祭神の赫赫たる御神威の故を以て、朝野を挙げてる霊驗あらたかな住吉信仰として崇敬されてまいりました。

御祓の神、海の神として御出現された住吉三神（底筒男命・中筒男命・表筒男命）は、ともに住吉大神として祀られます神功皇后に御神託と御神助を垂れ給いて、当時の朝廷の懸案でありました西国熊襲の平定と、朝鮮半島諸国との交流交易の道を導かれました。このことは、我が国の歴史上に特筆すべきこととして、『日本書紀』に「神功皇后」の一紀を設けてその御事歴が詳しく記されています。神功皇后は、この筒男三神・住吉大神の絶大なる御神威を崇められ、大和朝廷の守り神として住吉の地に祀られました。

爾来千八百年を超える歴史において、名神大社として朝廷の殊遇を賜り、遣唐使の発遣、歌人の尊崇、摂津国一宮、文学の舞台、北前船や菱垣廻船の航海守護など、皇室を始め庶民の信仰に至るまで特筆すべき事柄が数多くございます。また、年間の祭典におきましても、踏歌神事、白馬神事、御結鎮神事、松苗神事、卯之葉神事、御田植神事、住吉祭、宝之市神事などじつに多彩な神事があります。さらに、住吉大神を祀る本殿四棟は神社建築では最古の様式を伝えるものとして国宝に指定されるほか、重要文化財、国の登録有形文化財に指定された多数の建造物や宝物を有し、境内には名勝の反橋（太鼓橋）を始め多くの国と市の史跡を擁します。そして、景勝住吉之浜の白砂清松の名残を有する松の姿も麗しく、

森厳な社叢は大阪府みどり百選にも選定されています。これら有形無形の伝統文化は住吉大社の信仰の根源であります。

住吉大社の中今なかいまを担う者として、私どもは、先人が紡いで来られたこの住吉信仰を次世代へと伝承すべく、一意専心、神明奉仕に努めてまいる所存でございます。

どうか、崇敬者の皆様方には今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

住吉大社宮司 加藤 司郎

加藤 司郎（かとう・しろう） 昭和30年12月1日生。昭和53年皇學館大學文学部国史学科卒業。乃木神社奉職。平成22年権宮司、平成25年宮司就任。令和5年4月より住吉大社権宮司、令和8年4月宮司就任。現職。

退任のご挨拶

この度、三月三十一日をもって住吉大社宮司を退任致しました。昭和四十二年に住吉大社に奉職以来、住吉大神様の下でひたすら神明奉仕に励み、満六十年という節目で職を辞すことと致しました。令和五年よりは、宮司として三年間奉仕できましたことは、大神のご加護はもとより、皆様方の格別のご芳情によるものと衷心より深く感謝申し上げます。

省みますと、神功皇后のご出産のお手伝いをしたと伝えられる福岡の家に生まれ、思わぬご縁で大阪の住吉大社でのご奉仕となりました。奉仕を通じ、先人や崇敬者、多くの方々に教えられ成長させていただきました。年を重ねる毎に大神様とご先祖様の有難いお導きを実感し、年々活況となり多くの参拝者で賑わう今の社頭の様子に感慨も一入です。

住吉大社では間もなく次期遷宮の準備が本格化して参る予定です。新たな時代は次の世代の手に委ねたく、後任の加藤司郎宮司のもとで祭祀を厳修いたし、より一層の御神徳の宣揚に精励いたしますので、引き続きご高配を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



住吉大社 名誉宮司 神武 磐彦

神前手数入奉納を記念して大絵馬を製作

この度、第七十四代横綱豊昇龍関の神前手数入奉納を記念した大絵馬の除幕式を行いました。

住吉大社は力士の最高位「横綱」名称の発祥の地とされています。大相撲大阪場所では公益財団法人日本相撲協会による横綱神前手数入奉納が毎年行われています。

当社では平成十九年より立浪部屋の合宿を受け入れ、境内の土俵を稽古場として提供してきました。豊昇龍関は平成三十年に入門、立浪親方の厳しい指導のもと着実に番付を上げ、令和五年に新大関、令和七年に第七十四代横綱に昇進を果たしました。

昨年の手数入奉納後、立浪部屋と協議を重ねながら一年を掛けて大絵馬を製作。縦一対横約二対の樺材の一枚板に、豊昇龍関が昇進伝達式の口上で述べた「気魄一閃」などを第三十九代行司木村庄之助氏が相撲文字で揮毫。豊昇龍関をはじめ太刀持ちと露払いを務めた平戸海関、明生関の手形も添えられました。

当日は立浪耐治親方を始め豊昇龍関と明生関が参列。修祓に続き除幕を行いました。多くの参拝者が見守るなか大絵馬が披露されると一斉に拍手が沸き起こり、横綱の雄姿と大絵馬をカメラに収めていました。

今後は、住吉大社の新たな名所として、また住吉さまの力強い御神徳の証として後世に継承して参ります。

住吉大社 権禰宜 河野 充浩





住吉社『御狩神事』要言

住吉大社教学顧問 八木 意知男

はじめに

大阪、住吉大社では正月十三日、「御結鎮神事」が催される。「お弓始め」とも呼ばれるように、弓矢をもって邪気を払い、天下泰平を祈願する年頭の神事である。

この神事はそれとして、古くはここに「御狩神事」が関わっており、話をややこしくしていた。しかも「御狩神事」は、広田社祭事と重ねて理解しようとした為に、複雑さばかりが増している。

そこで、「御狩神事」の方へ視線を向けて、この絡み合いを考えてみたい。つまり、従来、「御狩神事」と「御結鎮神事」を同内容神事と考えて来たが、全く別意義の神事が、たまたま日を接して催されたにすぎない、と考えてはどうかとの提案である。なお、本提案について従来説の検討を逐一報告するつもりはない。その時代その時代を表現して来た信仰実体を誤りとすることは、不遜に過ぎると思量される故のことである。

住吉大社で古くに催していた「御狩神事」は、約束通りに鷹を用いた「鷹狩り」であった、と考える方が妥当である。故に鹿や猪を対象とするよりも、鳥類や兎狸等を対象とする狩りであった。

「住吉大社の鷹狩」は、『仁徳天皇紀』四十三年

九月条に見える「最初鷹狩」を神事として迎え入れたもので、その宗教的理念は、『大殿祭』における「天の血垂り飛鳥の禍無く」、又『大祓祝詞』における「高津鳥の災」を取り除くところから出発するものであった。住吉大社は、かつては海側に鎮座する故に、水鳥が集まり懸巢した。為に、社殿が毀れる被害と共に参詣者が穢れることもあったはずである。そこで祓いの神住吉大明神が手をおつけになったのが、水鳥払いの神事化に他ならない。

鷹を以って水鳥を追ひ払うことは、いくらも行なわれて居る。『類聚国史』卷三十一「天皇行幸」に

仁明天皇承和二年（八三五）十二月、

壬辰、天皇幸^ニ神泉苑^一。放^レ隼^ニ払^ニ水禽^一。

等と見えるのがそれである。現代でも鳩や椋鳥被害に悩む自治体がタカ類等猛禽類を使って追い払っている。従って、鷹を使用し、神事とした点、すぐれた視点であったのである。

加えて、鷹も仁徳帝所縁の鷹であるとなればなおさらであろう。

しかし、住吉大社と鷹狩の事は、実は良くわかっていない。そこで、これを少々考えておきたい。以つて、住吉大明神信仰史の一齣たらんことを。

(なお、本稿は、令和八年三月住吉セミナーにて話をした内容の一部に手を加えてまとめたものである。)

一 『住吉松葉大記』の中に

かつて住吉大社には「御狩神事」なる神事が催されていた。正月十日夜の神事であつたらしい。

この「御狩」が如何なるものであつたのか今一つ不明であるが、『住吉松葉大記』(昭59、皇学館大学出版部)第三七七頁第二行の割註に

陪膳田辺鷹合百姓等役也

とあり、第三七七頁第十二行に

或童男拳^ニ偶鷹^一又携^ニ餌竿^一共従出著^ニ座客殿^一、とあることを重視すれば、御狩^ニ鷹狩^一となる。通常にても天皇御狩は鷹狩のことであり、鹿・猪のことではない。

加えて、第六四八頁第四〇十行に

鷹飼堂

按^ニ旧記^一在^ニ今鷹飼村^一、此堂置^ニ别当職^一以知^ニ寺事^一、今無^ニ此堂^一、明応年中白洲弥次郎伯父源周為^ニ此堂别当^一、源周猛力剛強介^ニ白洲氏^一、而恣^ニ惨毒^一於住吉^一、其行跡無状不^レ可^ニ勝言^一、実当社之神敵也、斬^ニ其棺^一瀦^ニ其宅^一者於^ニ源周^一乎見^レ之事詳^ニ騷乱部^一也、鷹飼村在^ニ住吉郡内^一、昔仁徳天皇御宇依網阿珥古献^ニ鷹^一、百濟酒君指^ニ南其使^一鷹捕^レ鳥之術^上、遂幸^ニ百舌野^一放^ニ鷹^一取^ニ雉^一、酒君在^ニ此村^一飼馴鷹^ニ之故^一以^ニ鷹飼^一為^ニ村名^一、鷹飼百姓等奉^ニ仕当社神役^一、往々見^ニ旧記^一也、鷹飼村今日作^ニ鷹合^一者非^ニ古意^一也、



酒君塚の説明看板
題字筆者は正しくは「男爵(津守)国美」



酒君塚石碑(酒君塚公園)

とあるを見れば、『仁徳天皇紀』四十三年秋九月条と知ることが出来る。すなわち、住吉社に「御狩神事」として催されていたところのものは、仁徳帝の百舌野御狩に起因するものであつたと思量されよう。鷹飼堂は現東住吉区鷹合町一丁目酒君塚公園辺に比定されている。

二 住吉社「御狩神事」の宗教的意義

『仁徳天皇紀』の鷹狩初発記事にも影響されて催されて来た「御狩神事」であるが、この神事は「御狩」とある故、当然、御鷹狩であつたはずのことであり、禽類を中心対象とする狩猟であつて、猪や鹿を対象とする獣狩ではなかつた。

そして、『日本後紀』延暦二十三年（八〇四）十月の「鷹鶴ノ私養を禁ズルノ勅」以来、鷹狩は専ら天皇の行幸（野行幸）と結びついて居り、徒疎かに扱われるべきものではなかつた背景が存するのである。

ところで、住吉大社社頭はかつては海浜であつた。当然海の水鳥が多く遊び、中には巣くう類もあつた。さすればその害も発生した。御社殿は荒らされるし、参詣者は糞害に悩まされることになる。まさに『大殿祭祝詞』の謂う「高津鳥の災」、『大祓祝詞』の謂う「天の血垂り飛鳥の禍」であり、お祓いの神様なのに、となる。そこでこの災禍を避ける為にとられた手段は、鷹を撃つことである。害鳥を払うに鷹類が用いられた事は、京神泉苑に事例が幾度もあるし、最近は掠鳥の群れを払う例が報告されている。かくして「御狩神事」は催されることとなつた。

ところが、ここに大きな障害が生じることになる。其一は、鷹に追われた害鳥が西を目指し移動したのである。そして朝方には東へ。かくして広田社と共同作戦が必要となる。名付けて「ゑびす作戦」。其二は、多く社頭に巣懸けしたのが白鷺であつた事である。白鷺は勿論、住吉大社にとって神使神鳥である。白鷺にとつて鷹は宿敵なれば、

当然、これが追われることは、双手を挙げて賛成ではなかつたかも知れない。神鳥を追ひ払つてよいか否か、大問題である。

西宮神社のエビス様が鳥と結びつくのは、アビ（特にシロエリオオハム）漁が行われてその結果として鯛の大漁が得られる、というプロセスに依るものらしい。冬場―神鳥アビの飛来―アビはイカナゴを求める―そのイカナゴは鯛の好物―故にアビが集団する海には鯛がいる―鯛はエビス様の好物―住吉大明神も大好き、との考えによるものらしい。広島県の県鳥アビが住吉神と共にある証といつても良い。アビ漁は瀬戸内海を代表する漁法故、瀬戸内から御神饌の鯛を求める住吉大明神が無縁であるはずは無いのである。

三 「大臣家臨時客」と

ところで、猶一つふれておかねばならない問題がある。それは正月臨時行事に「大臣家臨時客大饗」なる行事が存したことである。

この行事は、「初任大饗」とも呼ばれ、「庇大饗」とも称される、新に大臣に任ぜられた時に催される私儀である。この行事の次第は『江家次第』に詳しい。甲田利雄『平安朝臨時公事略解』（統群書類従完成会、昭和56年刊）が述べるのもこれである。この行事と鷹狩りとの関連については、二条良基（後普光園院摂政）の『嵯峨野物語』（群書類従所収本）にふれられており、次の如くある。

a、代々元服元三の臨時客大饗には、みな引出物にせられし也。中比までもかやうにこそ

侍しか。

b、大饗などに鷹を据て前庭をわたる時、必ず三所にて鷹をとばせて鈴をならす。中庭上居時なり。犬は鷹飼の床子にゐる時、必ず跪く。たちたるをば失にする也。

(右二ヶ条、原文の仮名表記を漢字表記に改めた部分がある)

ここに記された部分の内容は、『住吉松葉大記』が伝える「十日御狩神事」中の

或、童男拳^ニ偶鷹^一、又携^ニ餌竿^一共従出著座^ニ上客殿^一、

とある部分と近似する。故に、当該「大臣家大饗」のイメージは、住吉大社「御狩神事」中に取り込まれていたと思量される。

四 餠餠・饅餅・三角の問題

住吉大社に嘗て斎行されていた「御狩神事」が鷹狩であったことは否めない。では、その獲物は如何に処理されたのか。あるいは又、御狩場で得た獲物を天皇が神前へ献進なさつたらば、如何様に神社は扱つたのか、とても気になる。特に御身内である八幡神から「放生会」の思想が出され、御歴代天皇からは主として殺生禁断の詔りが幾度も発せられた。かかる中で、官の大社であり、神宮寺を社頭に摂する住吉大社にとって重要問題であったはずである。

しかし、さすがに海の玄関を占める住吉大社であつた。唐の文物の中に見事対処品を見付け得た。餠餠・饅餅・三角の三品である。この三品、何れも米粉を主原料とする油揚げ菓子である。すなわ



住吉大社 祈年祭・新嘗祭特殊神饌 餠餠・饅餅

ち揚げ餅。餠餠には大豆餠が入ると云う。今日の揚げ餃子様の物か。

当該三品、住吉大社では特殊神饌として重視されているが、現実的には他社でも扱われている。住吉大社では『住吉松葉大記』「供膳部」に依れば、これが年中行事中の最初に四社の御供とされるのは、正月十三日である。そして魚味が正月御供とされるのは十六日であり、魚味よりも早い日に御供される。彼是を考え合わせると、三品特に餠餠は御狩の獲物の代替え品であつた可能性が高いことになる。

また、「炙物」「筆物」なる名称が散見される。「炙物」は火を当てて鳥の羽毛を去つたものと考えられ、『酒飯論絵巻』厨房図が参考となる。「筆物」は、

兎狸等の獸毛を^{むし}毛つたものとすれば、現実的には鳥獸肉は住吉大社にも存在した事になる。逆に云えば、鳥獸肉及び代替え品が認められることは、住吉大社の御狩神事は、文字通り御狩りであったということに外ならない。

五 「禁野交野」の御狩との関わり

天皇が御狩に行幸（是を「野行幸」とも云う）成り、複数日にわたって御狩をなされる（是を「日次の御狩」と云う）場合、一日目の夜に宴会が催されることが屢々であった。『万葉集』は明瞭にこの事を物語っているし、『類聚国史』巻十一にも明白である。例えば、

嵯峨天皇四年二月、

十日、幸^二皇太弟（淳和）南池^一。命^二文人^一賦^レ詩、
右大臣從二位藤原朝臣園人上^レ歌曰、

祁布能比乃 伊介能保度理尔 保止度支須

多比良波知与止 那久波企企都夜

今日の日の池のほとりに時鳥

たひらは千代と啼くはききつや

天皇和曰、

保度止伎須 那久己恵企介波 宇多奴志度

度毛尔千世尔度 和礼母企企多理

時鳥啼く声きけば歌主と

共に千世にとわれもききたり

大臣舞踏。雅楽寮奏^レ楽。

とあるなどするのがそれである。今少し御狩に即した例となれば、白河天皇承保二年十月の嵯峨野御狩と大井河逍遙を掲げればよいのであろうか。

『伊勢物語』（以下、『勢語』と略称）第八十二段はまさにかかる実態を反映するものであろう。そして、野行幸の折には、

仁明天皇養和六年閏正月十八日、行^二幸水成瀬野^一遊獵。山城・摂津両国献^二御贄^一。賜^二親王已下侍從及国司等祿^一有^レ差。

の如く、扈從群臣も祿を賜ったのである。この場合、交野は程近き故、住吉神主もこれを無視していたとは考えられない。

国基が『勢語』第八十二段を意識していたことは、『国基集』九十二番歌

七月七日、すみよしよりまかりのぼりしに、天の川といふところにて、日のくれにしかばとどまりて、舟をあらひきよめて七夕にかすとして

七夕は思ひしらなむ天の川いそぐわたりに舟をかしつる

なる歌が存することに因つても知られる。

おわりにかえて

ここに於いて重要と考えるのは、享和元年（二八〇二）に刊行の『河内名所図会』巻六に

和田寺（禁野村にあり、医王山仏陀院と号す。真言宗。現、枚方市禁野本町二丁目）貞観年中、文徳天皇第一、皇子、清和天皇の御兄惟喬親王、ここに遊獵の時、三足の雉、波瀲院に飛び入つて死す。すなはちこれを塚に築きて、小祠を建つる。今の鎮守これなり。（中略）
寺前に御狩桜あり。

とあることである。この伝はその後『兩岸一覽』にも承け継がれている。

白雉が出現した話は、『孝徳天皇紀』白雉元年（六五〇）二月条に見える。これと三足雉と、何れが重いのかは不詳乍ら、惟喬親王を巡つての問題の一つである。

惟喬親王の問題の一つが『勢語』第八十二段であるが、ここに於いて惟喬親王が御出題なされた「交野を狩りて、天の河のほとりに至る」題は、親王は彼の張鷟ちやうけんの説話を思い出されてのものではなかつたらうか。

漢の武帝の命に依り大月氏国へ赴いた張騫であるが、『荊楚歳時記』に依れば彼は武帝から黄河の源流を探ることを命じられ槎いかだに乗つて天の川に至り支機石しきいしを得て帰る。彼は黄河を遡つて崑崙山では西王母に出会つたとまで伝えられるようになる。この張騫伝は『懷風藻』や『文華秀麗集』にあらわれている。この説話を期待しつつの出題であつたのに、業平は『狩の一夜』の宿り」と軽く否した形となっている。「親王、歌を返々誦したまうて、返しえ給はず」となる。

両者の心持ちの差は、そのまま立場の違いと云うことになる。天皇に近い惟喬親王と従者の差である。そんな狩りの一コマであらう。

また、『愚秘抄鵜末』（定家作と伝、日本歌学大系四所収本）には

をがたまの木の事、家々にたつる義まぢま
ちに侍り。或義には、帝王御即位の時、御笠
山の松の枝をとりて、長さ五寸まはりも五寸
又は三寸にけづりて、是に御まもりを書きて
朱にて書御頸にかけさせまゐらせて、御即位は
く也。

て、後、御生氣の方に、五宝等の珍宝をそへて、高き山にうづみ納むといへり。これををがたまの木といふなるべし。

当家の相伝には、交野の御狩に鳥をつけて奉る鳥柴と申す木を、をがたまの木といふ也。

とある。この「をがたまの木」に関しては飯田武郷たけむらの息季治が『和歌秘伝鈔』に示している所に依れば、榊かしわの事となる。『和歌秘伝鈔』は二条派の秘伝書であるが、その万機の旬の歌として『詠太神宮二所神祇百首和歌』（度会元長、群書類従所収本）が引くところの

万葉ノ歌二、

玉串ノ御賀玉ノ樹ノ鏡葉二神ノ昨備きのりヘケルカナ
御賀玉ノ樹ノ、古今集二ハ榊ノ二ハ不レ有、
別ノ木ヲ云カ。三木ノ一也。

を承けて「榊かしわをがたまの木」とする。それは荒木田久老が「招霊ラガクマノ之樹キの義、榊の枝を折り来て、其の枝に神霊を招ぎ宿して斎き祭る也。」としている点に全面的に賛同しての事である。つまり、榊への供え物である点を以つて榊を副え、その折には榊を「をがたまの木」と称した、と云うのである。

「交野の御時に、鳥を着けたる柴を鳥柴としばと云ふ。是をも『をがたまの木』と云ふと京極黄門（定家）は宣へり。」との言も、右の解なれば納得出来る。神・天皇の為の御狩であらば、である。

二条派伝書に「榊かしわをがたまの木」説が顕著である時、知つて置く必要があるのは、住吉社第四十八代神主津守国助（後宇多院弘安八年四月補さる）の女が為世室となつてゐる事であらう。すなわち、津守家と二条派（為氏流）は結びついていたのであり、住吉大社としても充分に心して是を扱う必要が有る。

第五十回式年遷宮

住吉大社奉賛会の発会のお知らせ

住吉大社は神功皇后摂政十一年辛卯歳（二二二）にこの住吉の地に鎮座されました。国宝であります住吉造本殿は既に五世紀より三棟直列、二棟並列の形で建造され、往古の形を連綿と継承しております。天平勝宝元年（七四九）以来、二十年毎の式年遷宮の制が敷かれております。戦国時代など混乱期には欠滞することもありましたが、先人から脈々と引き継がれてまいりました住吉大社式年遷宮は、令和十三年に大きな節目となる第五十回を迎えることとなります。

此度の遷宮では、御屋根替えを目的とした国宝住吉造本殿四棟の改修工事をはじめ、歴史的建造物の保存修理・境内環境整備など、神威の甦りと年々活況を呈する境内の充実を図る計画を進めております。

つきましては、皆様のお力をお借りしての神威の発揚を期するべく、奉賛会を結成いたしたく存じます。役員・顧問・理事評議員等につきましては、これから編成を進め、来る令和八年十月に住吉大社奉賛会発会式を開催致すべく諸準備を進めております。

皆様のご理解とご協力を何卒お願い申し上げます。

第五十回式年遷宮スローガン

今、天平の精神^{こころ}よみがえり坐せ

― 令和の御代の槌音高く、より住吉らしく未来の杜へ ―



住吉大社御文庫三〇〇〇年記念碑

令和7年12月15日 大阪書林御文庫講様 奉納

住吉大社御文庫は享保八年（一七二三）九月、大坂・京都・江戸の書肆二〇人が発起人となって三都御文庫講を結成、住吉大社境内に寄付建立されたものです。その後、大阪天満宮にも御文庫が建立され、出版に際して両御文庫に初刷本を献本し、曝書を奉仕する慣わしが伝統となりました。明治四三年（一九一〇）からは、住吉大社と大阪天満宮の講が合併し、現在の大阪書林御文庫講が結成されました。

時代の混乱の中でも伝統を守り続けて来られた多くの方々のお力により、令和五年（二〇二三）九月に御文庫講創立三〇〇年を迎え、この佳節を祝う盛大な記念行事を挙行いただきました（第四一号に既報）。そして、今後も長きに亘りこの伝統を継承すべく、今般住吉大社御文庫前に記念碑を建立、奉納いただきました。



令和8年2月12日 奉納奉告祭・除幕式

第四回

堺と住吉大社

「住吉大社門前町としての堺」

摂泉堺郷土史研究所長・元堺市博物館学芸員 吉田 豊

住吉南祭と北祭・八十島祭

古代の住吉大社が南北二方向に祭祀を展開していたことは、『住吉大社神代記』（以下、神代記と表記する）の記述によって確認できる。神代記には、住吉神が主宰する解除（禊祓）の地として二か所が記されている。

六月御解除、開口水門姫神社（在和泉監）

九月御解除、田蓑島姫神社（在西成郡）

六月解除の地である開口水門姫神社は現在の開口神社（堺市堺区）である。九月解除の地である田蓑島姫神社は所在地不詳ではあるが、現在の田蓑神社がある大阪市西淀川区佃付近と堂島川に架かる田蓑橋がある大阪市北区堂島・中之島付近が有力である。この地はかつて田蓑の島と呼ばれ、難波八十島の一つであったらしい。

前者は南方の和泉監、後者は北方の摂津国西成郡（西生郡）であり、住吉大社を挟んで南北に対

をなすかたちで禊祓の場が設けられていた。これがのちに「南祭」「北祭」と呼ばれる祭祀の原型と考えられる。

住吉神は現在地に鎮座した初め、航海神としての性格が強く、その後しばらくして難波宮・難波津ができてからは大社の北方との結び付きも強くなったと思われる。応神・仁徳朝以来の難波王朝が直面した大陸・半島との交渉と深く関わる国家神となっていた。

南北解除体系との関係で注目すべきは、国家的儀礼として重要性を増す八十島祭が、神代記にまったく記されていないことである。八十島祭は天皇の即位に際して、付け替え以前の旧淀川・旧大和川の河口部に点在する島々を巡って禊祓を行なうもので、文献上の初見は八五〇年である。

一二二四年まで二二回にわたって行なわれ、その多くに住吉社の神主が関与した記録が残る。祭場は当初「熊河尻」であったが、のちに「住吉代

家浜（台家浜）」に移され、住吉社の影響力がしだいに強まった。八十島祭は旧淀川（大川）の河口付近などで行なわれており、これが住吉信仰の北方への展開を象徴する儀礼となった。

もし神代記が八十島祭の制度化以後に成立したとすれば、住吉社にとってこれほど重要な国家的儀礼を記さないとは考えにくい。したがって神代記は、八十島祭が定着する九世紀以前にその骨格が形成されていた可能性が高い。そうだとすれば、六月・九月の南北解除（開口・田蓑島）は、八十島祭よりも古い層の祭祀体系を反映していることになるだろう。

和泉監についても、七一六〇〜七四〇年の間のみ存在した行政区分であり、「開口水門姫神社（在和泉監）」という記載は神代記の成立年代推定の手がかりの一つでもある。このことから神代記の記事は七一六〇〜七四〇年ころか、それ以前から続く状況を反映している可能性が高い。

神代記と開口神社

神代記における堺の開口神社に関する記述は、二か所ある。一つは、先に引用した六月解除の記事である。「開口水門姫神社」とあり、水門（みなと）という語が付されていることに注目したい。

「水門」とは港口・河口の意であり、「開口」も河口部が海に開いている様子を示している。開口神社が単なる陸上の神社ではなく、海と川が交わる場所に鎮座していたことを示す。

もう一つが、住吉神の子神二九件のうち、二六



開口神社
中世堺南庄の氏神社。古代においては開速口水門姫神の社として、タラリラ川河口部に所在したと推定。

番目に「開速口姫神」として列挙されている箇所である。これは鎮座地の河川の水門、あるいは沿岸の海の流れが速かった様子を示しているのだろう。

開口神社の祭神をめぐるのは、のちに三村（開口・木戸・原村）の氏神を合わせ祀ったことから三村宮とも呼ばれるようになり、その中心的祭神として塩土老翁神が位置づけられている。塩土老

翁は『古事記』『日本書紀』において山幸彦を海神の宮へ導く案内者として登場する海神系の神であり、潮の満ち引きや航海と深く関わる。

江戸時代の地誌ではあるが『堺鑑』^{さかいかがみ}は、宿院の飯匙堀に干珠を埋めたという伝承を記しており、堺が潮干珠・潮満珠の神話世界と結びついていることを示している。

一方、神代記にみえる「開口水門姫神」「開速口姫神」は、『古事記』の速秋津比売、『延喜式』大祓祝詞(六月晦)の速開都比売と同系統の神である。河口・港口や潮流を司る女性神であり、水を浄化・再生する禊祓の神である。

『開口神社史料』(開口神社、一九七五年)編纂の中心であった曾根研三は、開口神社には本来、禊の場としての女性的海神信仰があり、それが住吉三神の男性的航海神信仰と重なり合うなかで祭神構成が変容していったと推定している。

タラリラ川と開口水門^{みなと}

六月解除の場は、どのような空間だったのか。それは、現在の開口神社と宿院御旅所の周辺に残る地名・地形の痕跡から、ある程度復元することができる。

現在の宿院御旅所(頓宮)が古くから移動していないとすれば、開口神社は現在地よりも二〇〇メートルほど南側、堺宿院付近の低地、タラリラ川(現・暗渠)の河口部に近い場所にかつて鎮座していたことになる。

一六九六年ころに成立した『泉邦四懸石高寺社

旧跡并地侍伝』には、「宿院之場より浜迄大溝有、是をチリヤデテと云、此川流之沖に式丁計り溝に棹之多き所有」とあり、一六八八年『和泉国村高并名所古跡集』には、チリヤタラリラ川の川口の沖合二丁の所に楠の鳥居があったとしている。チリヤデテは大溝であり、一七〇四年「泉州堺之図」のタラリラ川も一直線に流れていることから、自然河川を人工的に改変したものであろう。その河口から沖合い二町(約二一八メートル)のところ

に楠の鳥居があったという。宿院の御旅所は住吉神輿の渡御の目的地であり、飯匙堀^{いげほり}という独特の形状をした堀を伴っている。「川尻」という地名(バス停など)が御旅所から海寄りの地点に今も残り、井関川^{いぜきがわ}(宇野二〇二五年一六五頁)がその上流、タラリラ川がその下流であったと推定される。

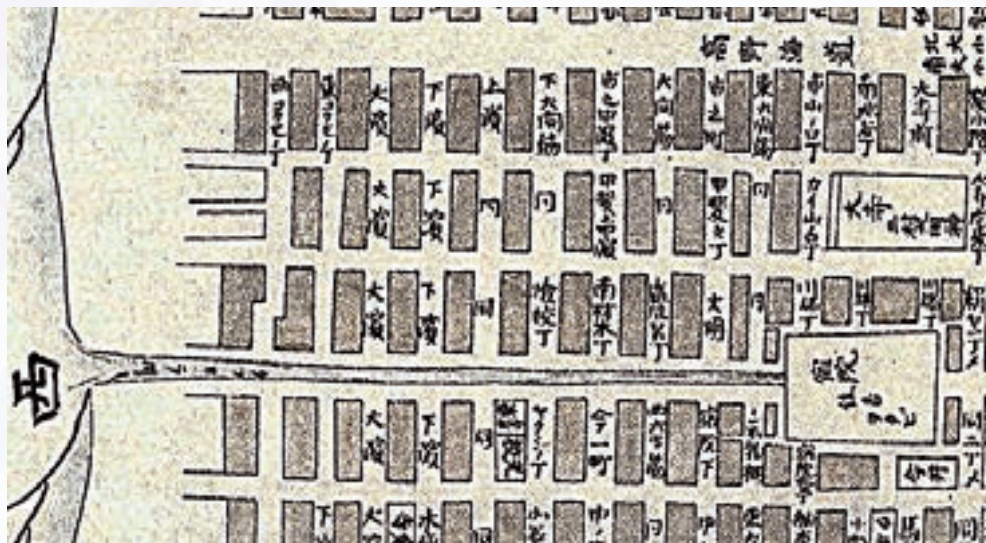
この川筋が、環濠が掘られる以前は御旅所の大溝・飯匙堀とつながっており、川尻を経て海に流れ出ていた。そこが古代の堺の水門(みなと)であった。

飯匙堀の飯匙^{いげ}は、ご飯をよそう杓子^{しゃくし}に似た形に由来するとも言われる。現在は四角な窪地であり、飯匙池とする文献も稀にあるが通常は堀と呼ばれるのは、川の一部としてタラリラ川で海まで繋がっていたためであろう。御旅所は単なる神輿の宿泊場所ではなく、海に向かって開かれた祭祀空間として機能していたと考えられる。

古代の解除儀礼においては、海水・塩水による心身の清めが中心的な行為であり、水門に隣接するこの場所はまさにそのための聖地として選ばれ

たのであろう。沖合いにあった楠の鳥居が示すように、祭祀空間は陸地にとどまらず海上にまで広がるものとして観念されていた。

堺の海岸部には低湿地が多かった。飛鳥の都方面と堺・住吉・難波を結ぶ長尾街道や神代記の堺大路（大小路）などの東西道が整備されたのは七



「泉州堺之図」(部分)、1704(宝永元)年作、大正時代模写、堺市立中央図書館蔵
図版右端の「宿院住吉ヲタビ」(御旅所)から左端の海へと「タラリラ川」が流れている。
吉田豊「絵図でみる堺港」(『堺研究』33号、2011年)より。

世紀後半以降のことであり、それ以前は南北の船の道が主要な交通手段であった。

そのような環境のなかで、水門としての地理的条件を備えた宿院周辺が、住吉の南方祭祀空間の結節点として選ばれたのであろう。

塩湯浴みと堺渡御

都が長岡京・平安京へ移り、七八五年の三国川開削以後、京と西国・大陸を結ぶルートが難波ではなく江口・神崎から大物・尼崎を経由するようになると、住吉は和歌の神・歌枕の名所として貴族に知られる存在へと変わっていく。

平安時代の堺について記した文献史料としては、まず藤原定頼(九九五〜一〇四五年)の『定頼集』がある。

九月ばかりさか井と云所に、しほゆあ
みにおはしけるに、ひめぎみの御もとに、
「すみよしのながるのうらもわすられて都
へとのみ急がるゝ哉」

これは「さか井」(堺)が、京都の貴族にとつて住吉社に近い塩湯浴みの地であったことを示している。和歌の中に「住吉のながるのうら」が詠み込まれており、堺と住吉が一体の景観・信仰圏として認識されていたことがわかる。集落名としての「堺」の文献初見とされることが多い記事であり(地名としては神代記の「堺大路」が先行する)、一二世紀前半にはすでに堺が貴族も知る場所となっていたことが確認できる。

次に、一〇六〇年から四三年間にわたって住吉大

社のトップである神主を務めた津守国基(一〇二六～一一〇二年)の『津守国基集』がある。

ある人のきのくにへくだるとて、住吉をすぎて、さかひといふところにてとどまり侍りしかば、「住吉の渡りにだにも音せねば、さかひの里を思こそやれ」

「住吉の渡り」とは住吉から堺へ向かう神輿等の渡御のことであろう。『小右記』九八二年六月二九日条の「明日住吉走馬」とともに、これが住吉渡御を示す最古の史料と考えられる。住吉神主自身が「渡り」と詠んでいることは重要であり、一世紀後半には堺への渡御が慣行として成立していたことが確認できる。

さらに、藤原為房(一〇四九～一一一五年)が一〇八一(永保元)年に熊野詣をした際の記録、『為房卿記』には次のようにある。

永保元年九月廿二日：申剋参住吉社奉

幣、戊剋着和泉堺之小堂、住吉神主国元

(基イ) 依罷、神主清経送粮米等。

津守国基が詠んだ「ある人のきのくにへくだる」とはこの為房の熊野詣を指すのかもしれない。神主国基は事情(障)があつて直接対応できず、和泉堺之小堂の神主と思われる清経が粮米(旅の食糧)を送ったのである。この小堂は開口神社に付属する施設の可能性がある、清経は開口神社の神主かもしれない。

この三史料から浮かび上がる平安時代の堺は、(一)住吉社に参詣する前後に宿泊し塩湯浴みする地、(二)紀州・熊野へ向かう旅人が食事をしたり宿泊する地、(三)住吉神輿の渡御の目的地という



「文久改正堺大絵図」(部分)

江戸後期の堺旧市域南半部の町並みの一部。中央上部に「三村宮」(開口神社)とその神宮寺の「大寺」(念仏寺)。中央下部に「宿院住吉御旅所」。両社の間に「川ハタ丁」(川端町)がみえる。

三つほどの顔を持つ場所であった。

それぞれの役割が住吉との結びつきを基軸に成立しており、大社に付属する門前町の姿といえる。粮米を供給するという記述があるように、参詣者・旅人を支える経済活動も行なわれていた。

まとめ

以上の検討から、古墳時代から平安時代の堺の都市形成について、次のように整理することがで

きる。

堺は、住吉大社の祭祀体系において六月解除の地であり、祭祀の場であった。神代記が記すこの解除儀礼は八十島祭よりも古く、奈良時代以前からあり、住吉信仰の南方への重要な拠点であった。

その祭祀空間の核が開速口水門姫神の社（やしろ現在）の宿院御旅所付近）であり、水門（みなと）が宿院のタラリ川河口付近に形成され、門前集落さらには門前町となっていた。

平安時代には、住吉神輿等の渡御目的地、塩湯浴みの地、熊野詣や西高野街道の宿場であり、堺は住吉大社の門前町としての機能を中心とする宿場町、経済都市として発展した。

なお筆者は、『住吉大社神代記』が奈良時代に成立したものであれ平安・鎌倉時代に編纂されたものであれ、奈良時代以前の古い原史料や伝承に拠っている部分が多いと考えているが、いずれにしろ少なくとも平安時代以降の堺発展の契機は、住吉門前町としての発展に拠るところが大きいと考える。

後代のことにはなるが、イエズス会宣教師フロ

イスの『日本史』一五六二年の記事でも、住吉大社の地は、「彼（住吉大明神）のために堺の郊外半里のところ、市の人々の行楽地となっている広野」であるとし、住吉と堺の結びつきが続いていることを記している。

堺のまちの具体的な姿は室町から江戸時代にならないと分からない。一六八九年に作られた元禄堺大絵図には、まちの南北の出入り口付近に旅籠町があり、住吉とも関係した乳守（ちもり）などの歓楽地もあり、まちの中心部には湯屋町（現在の熊野町）と市之町もあった。

堺を住吉大社の門前町と考えるのは、古代から中世にかけて大きな社領を有した住吉大社の門前町が大社近辺にないことも大きい。

たとえば住吉大社の南部にあった津守神主家の邸宅や社家の集住する地域、あるいは大社西側の浜地や南側の安立町や榎津、あるいは大社北側などに繁華な都市があった形跡は乏しい。

これらによって、堺が住吉門前町の第一の候補地であるということになる。

●主な参考文献

宇野千代子編『中世都市・堺の祭礼と景観』堺市博物館研究報告別冊、二〇二五年

日下雅義『古代景観の復元』中央公論社、一九九一年

曾根研三『開口神社史私稿』開口神社、一九七五年

三浦周行（監修・著）『堺市史』第一巻、堺市役所、一九二九年

吉田豊「堺と住吉―古代・中世の祭祀と社領―」『堺市博物館報』二八号、二〇〇九年

吉田豊「堺の歴史は住吉御旅所から」『堺市博物館報』三〇号、二〇一一年

住吉さんと太閤さん 第十二回

——毛谷村六助の仇討ち（上）——

就実大学講師 竹内 洪介

住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心に、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかわりを探ってみたいと思います。

ものを集めるのは好きでしょうか。私の場合、仕事柄たくさん本を集めます。現代の研究書だけでなく、江戸時代以前の本、いわゆる「古典籍」といわれるものを特に蒐集します。理由はただひとつ、古典籍は一点ものであることも多く、調査には途方もない資金と時間がかかる上、ただ本文を読めばよいというだけのものでも決していなくて、集められるものなら集めておいたほうが研究の精度が向上するからです（とくに秀吉の伝記を研究しているのは全国でも私ひとりなので、そもそも資料集めをしなければならなりません）。集め始めるとたいへんなものです。史料は無限にあるもので、いまや家にも研究室にも古典籍があふれかえっています。写本も版本（出版物）もあり、写本はいうまでもなく一点ものですが、版本の一点ものとなると（もちろん手作りである以上厳密にはすべてが一点ものなのですが）、なかなかありません。少なからず量産されたものなのですから、それもまた当然のことです。そうした中で住吉大社の御文庫におさめられる『絵本武勇



↑『絵本武勇大功記』がおさめられる御文庫。

大功記』（寺沢昌次画・作）は、まさに一点もの、千載一遇の出会いと呼べるものでした。

まずはこの書の概要をお示ししましょう。竪（たて）二十一・八糎（せんち）×横十五・〇糎の、半紙本とよばれる大きさの本で、もともとは上中下の三巻だったものを合わせて綴（と）じています。表紙は黄色で、幕末・明治期にはやったものです。興味深いのは奥付に、「皇都 藤井文政堂／寺町通五条上ル町／書林 山城屋佐兵衛」（「／」は改行を表します）とあり、匡郭と呼ばれる枠線の太さや、奥付の刷りなどからして明らかに覆刻本（ふくくばん）と思われることです。ここにある藤井文政堂の情報こそが貴重です。藤井文政堂は京都に現在も残る有名な書店で、代々その当主を山城屋佐兵衛（藤井佐兵衛）がつとめ（現在は六代目）、文政年間（二八八～一八三〇）に開業しました。二代目が「文政堂」を名乗り始めたといわれていますので、「藤井文政堂」とあるからには二代目以降の刷、ということになります。さらに藤井文政堂はもともと、初代のときに蛸薬師通高



↑住吉大社御文庫蔵『絵本武勇大功記』奥付

倉西入ルに店舗を構えていましたが、二代目の時に三条通麩屋町に移転、さらに寺町通四条上ルを経てから嘉永（二八四八～一八五五）ごろに同五条上ルに移転したことがわかっています（以上、松田泰代「京都・大坂における近世の書籍卸販売および板木流通の一事例」参照）。ですから、この本は奥付を見るかぎり、まず間違いない嘉永年間以降に刷られたものといえます。

この本は住吉大社以外にも国立国会図書館（東京都）と蓬左文庫（愛知県。巻下のみが現存）に所蔵が確認できますが、どちらも「藤井文政堂」が版元ではありません。それもそのはず、この本はもともと、藤井文政堂ができるはるか以前にできたものだからです。藤井文政堂ではない版のものも、わずかに二点しか残っていないので、相当な珍本です。時期はおそらくこの本の序文に示される通り寛政二年（二七九〇）前後でしょう。幕末の刷りものとなると、住吉大社のものが国内では唯一にありません（脱稿後、米国スタンフォード大学に同じ版元のものがあることを知りましたが、未見）。

ではこの本のなにがいったい貴重なのでしょうか。この本は『絵本武勇大功記』という名の通り、「太閤記物」とよばれる秀吉の伝記的資料をもとにした、天明・寛政年間（二七八～一八〇二）に爆発的に流行した浄瑠璃・歌舞伎ブームに乗ったものです（松崎仁「寛政期の浄瑠璃復興」参照）。『太閤記』とはもともと秀吉一代の伝記をさすもので、特に小瀬甫庵による史論が有名ですが、江戸時代中期にいたって出版統制令が布告され、新種の軍書・軍記の執筆が制限されるにおよんで、「真柴久吉」（羽柴秀吉を当て込んでいます）を主軸とする、浄瑠璃・



国立国会図書館蔵→
「五三の桐 真柴久吉（当盛見立三十六花撰）」。
文久2年（1862）、豊国画。

歌舞伎による虚構の世界である「大功記」にその舞台がうつるようになります。また、書物としての伝記の生産も、それまでのような歴史書ではなく、講談の筆記録に源流を発する実録体小説が中心となります。浄瑠璃・歌舞伎は、録画技術のない江戸時代において、ただ「観る」だけのものではなく、ひろく販売・貸借された台本を通じて「読む」ものでもありました（長友千代治「古典への招待 第七十五回 近松の浄るり本を百冊よむ時は習はずして三教の道に悟りを開く」参照）。そうした意味でいえば、天明・寛政年間、虚構世界の「大功記」が全盛だった時代だといえるでしょう。金時徳氏はこの書物が十八世紀中期～後期における庶民向けの朝鮮軍記ものの代表的なものとして位置づけられます（金時徳『異国征伐戦記の世界』参照）、それを裏付けるかのよう

価値は極めて高く、住吉大社所蔵本は他のものとまったく違う奥付をもつ点できわめて貴重なものといえます。

さて、こうした演劇隆盛期に生まれた「大功記」のなかには、秀吉を主人公とするものだけでなく、秀吉をとりまく数多くの武将たちを主役にした、数多くのスピントフも生まれました。『絵本武勇大功記』もそのひとつです。秀吉は冒頭と巻末にしか登場せず、その大半は毛谷村六助という武将が占めます。毛谷村六助については次号でも詳しくとりあげますが、おおむね辞書は下記のように説明します。

浄瑠璃、歌舞伎の主人公。／だまし討ちにされた師の吉岡一味斎の娘をたすけて仇を討たせ、豊前小倉城城主立花統虎に貴田統治の名をあたえられる。浄瑠璃「彦山権現誓助剣」は天明六年（二七八六）初演された。名は豊前英彦山（福岡県）毛谷村の樵で、のち加藤清正につかえ朝鮮で戦死した実在の人物からとられた。（『日本人名大辞典』「毛谷村六助」項）

つまり実在の人物（この解説中にある貴田統治のこと）に取材したものことですが、この人物がどのような人物であったのかは、よくわかりません（大隅和雄「毛谷村六助」参照）。秀吉の前半生もそうですが、この天明・寛政年間の「太閤記物ブーム」は、歴史的要因がよくわからない点を、むしろ歴史的事実から乖離したゆたかな想像力で補うことにひとつの特徴がありました。毛谷村六助も、その産物であったといえるでしょう。このころの作品はとくに幕

府による政治的規制や、それに対する自己規制も働いていましたので、登場人物そのものが虚構であることがまま見られます。

さて『日本人名大辞典』には浄瑠璃「彦山権現誓助剣」がとりあげられますが、『絵本武勇大功記』には同作影響が認められるといわれ、同作同様に毛谷村六助が主要な役割を担います。金時徳氏のまとめにしたがえば、巻上には、六助が加藤正清（真柴久吉同様、清正を当て込む）に仕えるまでの経緯と、大功（太閤）久吉が朝鮮出兵を宣言し、日本軍が渡海するまでのことが記されます。巻中・巻下は朝鮮出兵のくだりを述べます（金時徳「国立国会図書館蔵



↑ 国立国会図書館蔵
「毛谷村六助・女房おその」。
嘉永6年（1853）、豊国画。

『絵本武勇大功記』翻刻と解題」参照。この連載に関連付けて付言しておくならば、冒頭を高良明神ではじめ、そして巻末を住吉明神の場面で締めくくる点は注目されます（なぜ高良明神ではじめ、住吉明神で締めくくるのかという問題は、次号でお話します）。

『絵本武勇大功記』は、その書型・題名からして、寛政末〜文化初年（二八〇年前後）に出版された絵本読本『絵本太閤記』（武内確斎著・岡田玉山画、全七編八十四冊）に先駆けるものとして注目されます。この連載の第五回で取り上げたとおり、同書はその完結から二年後に幕府によって絶版になってしまい、さらにその後約半世紀にわたって、同書だけ

でなくあらゆる秀吉伝記が出版・所持できなくなる事態に陥りました。幕末になって検閲体制が変わり、当時の尊王攘夷思想に伴って秀吉の再評価が進んだ結果、『絵本太閤記』は再版を許可されるにいたるのですが、それはこの『絵本武勇大功記』に関しても同じような状況だったのではないかと、この本の序文の時期、再版本の時期から推察されます。

以上、まず今号では住吉大社御文庫にねむる『絵本武勇大功記』を紹介し、その意義と書誌を考察しました。次回はこの本の内容を考えます。なぜ住吉明神が巻末に位置しているのでしょうか。どうぞ次回をお楽しみに。



→『絵本武勇大功記』巻末（住吉大社御文庫蔵）。住吉明神に久吉が参拝します。

参考文献

- ・大隅和雄「毛谷村六助」（新版日本架空伝承人名事典）、平凡社、二〇一二年
- ・粕谷宏紀「スタンフォード大学フーバー研究所EAST ASIAN COLLECTION蔵『江戸時代版本』目録（中）」（『語文』第七十七号、一九九〇年）
- ・金時徳「国立国会図書館蔵『絵本武勇大功記』翻刻と解題」（『国文学研究資料館紀要』第三十五号、二〇〇九年）
- ・長友千代治「古典への招待 第七十五回 近松の浄るり本を百冊よむ時は習はずして三教の道に悟りを開く」（『新編日本古典文学全集』第七十五巻、小学館、一九九八年）
- ・松崎仁「寛政期の浄瑠璃復興」（岩波講座 歌舞伎・文楽）所収、岩波文庫、一九九八年
- ・松田泰代「京都・大坂における近世の書籍卸販売および板木流通の一事例…藤井文政堂 第六代目山城屋佐兵衛（藤井聲舟氏）所蔵『天明三年癸卯十一月／兩経仕立賣引工定帳』」（『書物・出版と社会変容』第十三号、二〇一二年）

付記

本稿は、JSPS科学研究費（22K20041）の助成を受けたものです。

社務日誌抄

(令和七年一月から令和八年四月分まで)

令和七年(二〇二五)

十一月

一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。楠珪社休憩所紫幕新調、奉納者カウゼル(株)代表取締役 西田全左人氏。モンゴル秋まつり大阪二〇二五、岡権宮司・宮崎 奥野権禰宜出席。南座錦秋講演上方喜劇まつり 三林子氏楽屋見舞、高階禰宜・武田権禰宜訪問。BS団会議、西角権禰宜出席。

二日 宮司以下参籠。

三日 明治祭(中祭)、神武宮司以下奉仕。東粉浜小学校催事境内使用。名所旧跡を巡る区民ハイキング境内使用。

四日 宮中献穀箱奉納奉告祭、(株)金剛組代表取締役会長 大槻純一郎氏以下参列。京都皇典講究所創立・京都國學院一四〇年祝賀会、岡権宮司出席。神道青年会会合、附柴 西角権禰宜出席。神稜講秋季例会(伊井諾神宮)、神武宮司・武田権禰宜出席。神社庁関係者大会、加藤 岡権宮司・高階 小出禰宜・河野 鈴木 小山手権禰宜出席。

五日 卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。住吉踊保存後援会支部長会、滝沢権禰宜以下出席。BIA設立三〇周年記念式典、岡権宮司出席(翌日迄)。神道青年会理事総会、附柴 西角権禰宜出席。大阪市立天下茶屋中学校職場体験学習五名受入(翌日迄)。近畿税理士会住吉支部献血奉仕活動境内使用。

六日

初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。十日会(四條畷神社)、神武宮司出席。(学)皇學館評議員会・理事長就任披露宴、加藤権宮司出席。住吉商業高等学校境内案内四名受入。御祓講獅子催事境内使用。

七日

一〇日 埴使、万力禰宜・附柴権禰宜・園田社務員奉仕 奈良県橿原市雲名梯川俣神社・畝火山口神社。市戎大國社月次祭、岡権宮司以下奉仕。宮内庁・明治神宮・靖國神社献穀奉仕(翌日迄)、宮司・武田 倉智 河野権禰宜 御田講 山本吉信氏・(株)金剛組代表取締役社長 大槻純一郎氏他五名出張。住吉大社セミナー「後鳥羽院と和歌」住吉大社に関する和歌説話を発端に「武蔵野大学・京都女子大学非常勤講師 畑中智子氏講演。

二二日

五社秋季例祭、小出禰宜以下奉仕。大阪市立清江小学校はぐくみネット事業授業 岡権宮司講師、小山手権禰宜助手(住吉かかしプロジェクトについて)。

二二日

貝塚市立第一中学校職場体験学習一名受入(翌日迄)。大阪帝塚山ロータリークラブ例会、加藤権宮司出席。

一三日

大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。大阪市立真住中学校職場体験学習八名受入(翌日迄)。交通安全教育コンクール予選(大阪府警主催)、古澤神楽女参加(第一位本選選出)。

一四日

神社庁第九支部神宮大麻暦頒布始奉告祭、滝沢 倉智権禰宜助勢。同総会、岡権宮司・進藤 西角権禰宜出席。

一五日

十五日祭・七五三祝祭、神武宮司以下奉仕。粋心流星華吟詠会創立六五周年記念祝賀会、神武宮司出席。神社スカウト協議会、中野禰宜・山下権禰宜出席。御祓講獅子会合、万力禰宜・西角 古館権禰宜出席。大阪メトロウォーキングイベント境内使用。読売新聞七五三風景境内取材。

一六日

装道礼法きもの学院、七五三詣きもの救助隊奉仕。BS一二三団、七五三詣境内誘導奉仕。

一七日

毎日放送「ごぶごぶ」浜田雅功氏・角田夏実氏撮影。

一八日

十八日会(賀茂別雷神神社)神武宮司出席、高階禰宜随行。

一九日

愛知県重要文化財所有者連絡協議会二三名参拝、宝物拝観。大阪市立大和川中学校職場体験学習七名受入(翌日迄)。大阪帝塚山ロータリークラブ催事、加藤権宮司参加。

二〇日

海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。交通安全教育コンクール本選(大阪府警主催)、古澤神楽女参加。近畿神社庁連合総会、岡権宮司出席。墨江連合女性部講座、小出禰宜講師。絵馬殿屋根修理工事施工。

二一日

大阪府玩具人形問屋協同組合連合会・大阪玩具人形住吉講講元 増村和行氏以下定例参拝。同総会、加藤権宮司以下出席。(一財)住吉住之江産業界優良従業員表彰式、岡権宮司出席。

二二日

自転車新交通ルールを学ぶ会&刈北フェスティバル、古澤神楽女出演。本殿清掃。特殊神饌調製。宮司以下参籠。

二三日

新嘗祭(大祭)、神武宮司以下奉仕。責任役員 小島康秀氏、御田講・蓬萊講講元 濱田孝氏、JA大阪府代表理事組合 長田 中聡氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏、敷布講講元 石田和正氏以下参列。にんやか田邊神馬ウォーク三八名参拝。

二五日

初詣関係者会議、神武宮司以下出席。境内地質調査(ボーリング)(着工(十二月末迄)。

二六日

皇學館大学共通科目、小出禰宜講師。(株)伊藤園飲料奉納。曾呂利寄席開催(宿院頓宮)。

二七日

石川県神社庁七尾鹿島支部長 伊掛敏之氏以下参拝。故千玄室宗匠お別れの会、神武宮司・高階禰宜弔問。神社庁総代会・理事会・評議員会、岡権宮司出席。

二八日

浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。

三〇日

定例清掃。職員会議。

十二月

- 一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。
住吉警察署歳末特別警戒部隊発隊式境内使用。館友会大阪府支部懇親会、加藤権宮司以下出席。住吉踊に関する講話、田中教導師・小山手権禰宜講師。
- 二日 熱田神宮学院参拝。防火設備定期点検。
- 三日 大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡権宮司(及六・七・二二日)、禊錬成助教 万力禰宜(及五・一・二二・二三) 助勢。神社結婚式場会関西エリア懇親会、岡権宮司以下出席。全国国宝重要文化財所有者連盟総会、高階禰宜・倉智権禰宜出席(翌日迄)。ABEMATV境内撮影。安立小学校校外学習境内使用。なにわ歴史シンポジウム上町台地未来遺産フェスタ、小出禰宜講師。
- 四日 御神酒講正月献酒打合会、加藤権宮司以下出席。
- 五日 館友会神職懇話会、神武宮司出席、小山手権禰宜随行(翌日迄)。宿院頓宮崇敬会役員会・常任総代会、岡権宮司出席。
- 六日 市戎大國社月次祭、逸見権禰宜以下奉仕。消防機材点検作業。卯之日祭、神武宮司以下奉仕。港住吉神社氏子総代会会合、神武宮司・名村権禰宜出席。朝日放送「news おかえり」取材撮影。
- 七日 大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。正月奉仕説明会(公財)日本相撲協会手数入奉納打合会(富士ヶ根・阿武松親方)、神武宮司以下出席。安立神輿会会合、小出禰宜以下出席。
- 八日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。住吉御文庫三〇〇年記念碑建立。御田講合会、神武宮司以下出席。山口県下関市住吉神社例大祭、岡権宮司参列。なにわ七幸会会合、滝沢権禰宜出席。社報「住吉さん」第四五号発行。
- 九日 大阪帝塚山ロータリークラブ会合、加藤権宮司出席。住吉祭(興丁勸奨)ボスター制作感謝贈呈式(大阪府立港南造形高等学校)、安立神輿会会長 中野紀久雄氏・小出禰宜以下訪問。
- 一〇日 十八日会(湊川神社)神武宮司出席、高階禰宜随行。
- 十一日 十日会(当社開催)、神武宮司・岡権宮司・高階禰宜・武田河野小山手権禰宜出席。
- 十二日 海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。神馬白雪号帰社(一月七日迄)※例年一月七日のみ、来る午年のため長期間帰社。
- 十三日 松谷秀子氏、明治天皇所縁御品奉納。
- 十四日 松尾江美子氏来社奉賛。新規採用者選考。
- 十五日 (公財)日本相撲協会設立一〇〇周年記念式典、神武宮司、武田権禰宜、石橋主事出席。
- 十六日 (学)浪速学院理事会評議員会、神武宮司出席。
- 十七日 煤払式、岡権宮司以下奉仕。自衛消防訓練、自衛消防隊・神武宮司以下参加。本殿清掃。
- 十八日 浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。(医)契成会ひのうえ眼科グループ理事長 樋上泰成氏来社奉賛。
- 十九日 プ理事長 榎上泰成氏来社奉賛。
- 二十日 師走大祓、除夜祭、神武宮司以下奉仕。宮司以下参籠、年越。

令和八年(二〇二六)

一月

- 一日 若水の儀、歳旦祭、神武宮司以下奉仕。初詣※正月三ヶ日参拝約一五〇万人。初詣特別分課実施。正月本殿祈待・新年神楽各奉仕。警備本部開設。りそな銀行グループ、南海ビルサービス協力会社等、各境内清掃奉仕(三日迄)。
- 二日 琴古流尺八美風会奉納演奏。
- 三日 元始祭、神武宮司以下奉仕。
- 四日 踏歌神事、加藤権宮司以下奉仕。敷布講講元 石田和正氏以下新年参拝。
- 五日 初卯祭、岡権宮司以下奉仕。初詣関係挨拶、加藤権宮司・武田権禰宜各訪問。関西ラジオワイド白馬神事取材。
- 六日 初辰祭、加藤権宮司以下奉仕(※初辰まじりは二の辰。本日より通常閉門。サイクルモード公式YouTube動画境内撮影)。
- 七日 白馬神事・昭和天皇祭選擇、岡権宮司以下奉仕。神馬白雪号・川上正太郎氏奉仕、神馬講議員・崇敬者参列。新年献詠祭選者会、選者 佐沢邦子氏・安田純生氏選考。神稜講・御神酒講新年参拝。
- 八日 四本宮並船玉社檜皮屋根防火放水(一〇日迄)。
- 九日 市戎大國社宵宮祭(宵えびす)、岡権宮司以下奉仕。市戎大國講講元 北正彰氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏・夏越女保存会会長 長田淳子氏・住吉御崎講 塩田亮氏・住吉踊保存後援会 田中玲子氏・福娘一名、各参列奉仕(翌日迄)。祈待木奉焚行事、御崎講奉仕(翌日迄)。みずは銀行住吉支店鏡開き、当社所蔵住吉神像(市指定文化財)奉斎。住吉警察署「二一〇番の日」境内使用。
- 一〇日 市戎大國社例祭(本えびす)、加藤権宮司以下奉仕、前日同断。
- 十一日 阪井啓一氏来社奉賛。住吉大社前郵便局、境内清掃奉仕。防火放水時、第一本宮檜皮屋根一部破損。
- 十二日 港住吉神社新年祭、加藤権宮司以下奉仕。
- 十三日 若宮八幡宮例祭(湯立神事)、岡権宮司以下奉仕、宮原幸夫氏・佐備神社宮司・関西雅楽松風会以下神楽奉仕。不審菴初釜式、神武宮司出席。南大阪歩け歩け協会行事境内使用。
- 十四日 御結鎮神事、神武宮司以下奉仕、奉射神事弓十番(住吉大社御結鎮祭大式大阪府弓道連盟会長 砂口勝紀氏以下奉仕)。
- 十五日 大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。宿院頓宮新年祭、岡権宮司以下奉仕、神武宮司以下参列。第一本宮檜皮屋根補修足場工事。
- 一六日 第一本宮檜皮屋根補修工事、大阪府文化財保護課四名来社。
- 一七日 四本宮並船玉社防火放水実施(翌日迄)。
- 一八日 十五日祭・新年献詠祭(産経新聞社後援・末廣堂協賛)、神武宮司以下奉仕、選者 佐沢邦子氏・安田純生氏、産経新聞社

北村昭弘氏以下、入選者各参列。天位「孫五人どの子も絵筆持つが好きばあは夢見るファミリー展」を浦木逸子夫氏、地位「じいちゃんの育てた馬に乗ってみるなにか良きことありそうな年」今北渚氏、人位「農作業後妻と互いを労いて水菓ひとつをふたりして食む」石田賢吾氏。古札焼納式(とんど)、万力禰宜以下奉仕。第一本宮檜皮屋根根柢修工事竣工。読売新聞大阪本社わいず倶楽部境内清掃奉仕。

一七 初辰まいり(二の辰)。半床庵初金式、加藤権宮司出席。
一八 大阪船主会海上安全祈願祭、神武宮司以下奉仕、大阪船主会
一九 会長 安藤美和子氏・近畿海事広報協会 星野公彦氏・近畿運輸局局長 小澤康彦氏・大阪海上保安監部長 宮本勝通氏以下参列。

二〇 海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。

二一 天機奉伺(宮中参内)、仙洞御所 秋篠宮邸 新年御機嫌伺、神武宮司参向、高階禰宜・小山手権禰宜随同。日本相撲協会大阪場所事務所、武田河野権禰宜訪問・開設御祝。

二二 京阪神エルマガジン社取材。

二三 十日会(当社開催)、神武宮司・加藤 岡権宮司・高階禰宜・武田河野 小山手権禰宜出席。住吉踊保存後援会支部長幹事会、山下権禰宜以下出席。阪急交通社催事(産経新聞特別編集委員 安本寿久氏講座)境内使用。

二六 文化財防火デー合同消防訓練、宮司以下参加、大阪市消防局・住吉消防署・住吉大社自衛消防隊協力(三年に一度の大規模訓練。JTBコミュニケーションズデザイン境内撮影。

二七 今主杜例祭、高階禰宜以下奉仕。国旗掲揚推進御堂筋パレード、附柴権禰宜参加。

二八 浅沢杜月次祭、高階禰宜奉仕。愛知県神社庁尾張北支部 大縣神社宮司 日比野健氏以下参拝。

二九 山梨県神社庁庁長 小佐野正史氏(富士山小御嶽神社宮司)以下三〇名参拝。(学)皇學館理事長 圓藤恭久氏以下二名参拝。第一、第二本宮両幣殿鬼瓦落下防止補強工事施工。

三〇 神宮新年参拝・神宮司庁、神武宮司参拝、高階禰宜随同。産経新聞大阪本社(献詠御礼)小出禰宜・神武 古館権禰宜訪問。定例清掃。職員会議。NHK「ええとこ」取材。

二月

一 朔日祭、神武宮司以下奉仕。立間杜例祭、万力禰宜以下奉仕。
海士子杜例祭、高階禰宜以下奉仕。

三 節分祭、神武宮司以下奉仕。港住吉神社節分祭、加藤権宮司以下奉仕。追儺步射式、弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家小笠原清忠氏以下小笠原同門会奉仕。住之江区北島高砂神社節分祭、神楽女一名助勢。

四 常任総代 大屋登史子氏退任奉告参拝。大阪帝塚山ロータリークラブ例会、加藤権宮司出席。

五 大阪市立住吉第一中学校職場体験学習八名受入(翌日迄)。

六 住吉税務署 確定申告広報協力、神武宮司「進」揮毫・インタビュ、神楽女スマートフォン納税体験参加。東粉浜女性学級学習会、小出禰宜講師。カウゼル(株)会長 故西田起夫氏通夜祭、山下権禰宜弔問。

七 富士山本宮浅間大社氏子青年会会長 川口和也氏以下二六名参拝。BS団会議、福山西角権禰宜出席。

八 御祓講獅子会議、万力禰宜・西角 古館権禰宜出席。
九 撰社若宮八幡宮・船玉神社御扉複製奉納奉告祭、奉納者小西美術工藝社代表取締役 デービッド・アトキンソン氏以下三名参列。

一〇 卯之日祭、岡権宮司以下奉仕。市戎大国社月次祭、逸見権禰宜以下奉仕。

一一 紀元祭・橿原神宮遷拝、神武宮司以下奉仕。初辰祭、万力禰宜以下奉仕。橿原神宮紀元祭、岡権宮司参列。故小串安代氏(熱田神宮名誉宮司 小串和夫氏御令室)通夜祭、加藤権宮司弔問。BSテレ東「全力YELL」ボートレーススピリッツ」高憧四季氏・渡辺裕太氏境内撮影。

一二 住吉御文庫三〇〇年記念碑建立奉告祭、大阪書林御文庫講元 藤波優氏以下二五名参列。故小串安代氏葬儀、加藤権宮司弔問。神社庁役員会、岡権宮司出席。神社庁教養研修会、高階禰宜・武田権禰宜参加。日本相撲協会大阪場所御免祝、武田 西角権禰宜出席。

一三 大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。衛士社社員研修旅行第一班、万力禰宜以下引率(翌日迄)。

一四 十五日祭、神武宮司以下奉仕。住吉武道館武道祭、加藤権宮司出席。

一六 住吉大社セミナー「能楽独吟「高砂」狂言「節分」公演・講話」能楽師 山中雅志氏・狂言師 善竹隆平氏講演。日本ハウスクリーニング協会境内清掃奉仕。南都銀行 NANTO 堺交流会、岡権宮司講師。近畿地区中堅神職研修会(奈良)附柴 奥野権禰宜参加(二〇日迄)。

一八 十八日会(賀茂御祖神社)神武宮司出席、高階禰宜随同。帝塚山街づくり交流会、小出禰宜出席。

一九 神社結婚式場会勉強会、岡権宮司・中野禰宜参加。衛士社社員研修旅行第二班、小出禰宜以下引率(翌日迄)。立正佼成会大阪教会西南支部境内清掃奉仕。

二〇 海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。関西テレビ「newsランナー」大東駿介氏取材。

二一 明生力関(日本相撲協会立浪部屋)結婚披露宴、神武宮司・岡権宮司出席。西岩部屋、港住吉神社寄宿(三月二七日迄)。

二二 宮司以下参籠。立浪部屋境内寄宿(三月二九日迄)。

二三 天長祭、神武宮司以下奉仕。

二四 土俵祭 降神の儀、小出禰宜以下奉仕、立浪部屋参列。住吉大社責任役員会・常任総代会・総代会、神武宮司以下出席。日本相撲協会維持会員の集い、加藤 岡権宮司出席。

二五 労務管理研修会、武田権禰宜参加。日本テレビドラマ「月夜

行路一境内撮影。

二七日

大阪市立住吉幼稚園・墨江幼稚園、わんぱく相撲体験七八名参加、立浪部屋・住吉警察署協力。(学)皇學館評議員会、加藤権宮司出席。神社庁神宮大麻暦頒布終了奉告祭・役員会・協議員会、岡権宮司出席。

二八日

浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。日本相撲協会 手数入奉納、理事長 八角信芳氏・担当部長 伊勢ノ海準人氏・横綱 豊昇龍閣(太刀持 平戸海関・露松 豪ノ山関・行司 木村庄之助氏・呼出 克之氏・横綱 大の里関(太刀持 高安関・露松 隆の勝関・行司 式守伊之助氏・呼出 重夫氏以下奉仕。読売新聞・毎日新聞・デイリースポーツ・日刊スポーツ・サンケイスポーツ等各取材。定例清掃。職員会議。

三月

一日

朔日祭、神武宮司以下奉仕。

二日

住吉大社セミナー「住吉開帳―交野の渚の院の業平―」住吉大社教学顧問・京都女子大学名誉教授 八木意知男氏講演。立浪部屋稽古観覧。神武宮司他五四名参加。

三日

大阪ユニセフ協会へ外貨募金寄贈、宮寄 附柴権禰宜訪問。

四日

淀商業高等学校職場体験学習三名受入(翌日迄)。清風高等学校卒業証書授与式、岡権宮司出席、小山手権禰宜随行。

五日

侍者社例祭、万力禰宜以下奉仕。賀茂御祖神社宮司 友田重臣氏参拝。小南富美子氏来社奉賛。立浪部屋激励会、加藤 岡権宮司出席。南都銀行帝塚山支店交流会、小出禰宜講師。

六日

卯之日祭、岡権宮司以下奉仕。埴使、中野禰宜・福山権禰宜・酒巻社務員奉仕(奈良県橿原市 雲名梯川侯神社・畝火山口神社)。十日会、神武宮司出席(枚岡神社)。院友会大阪支部役員会、宮寄権禰宜出席。故松尾保氏通夜祭、名村権禰宜参列。初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。BS団会議、西角権禰宜出席。宿院頓宮崇敬会参拝旅行(愛知県名古屋市熱田神宮方面)古布中川権禰宜引率(翌日迄)。賀茂御祖神社名譽宮司 新木直人氏来社。

九日

日本相撲協会八角理事長挨拶、岡権宮司・武田 小山手権禰宜訪問。神社庁例祭習礼、岡権宮司参加。

一〇日

市戎大国社月次祭、加藤権宮司以下奉仕。神社庁例祭、岡権宮司奉仕。

一一日

大規模災害発生時における境内使用協定締結(住吉警察署)。

一二日

大阪わかば高等学校職場体験学習四名受入(翌日迄)。草雉会結成七〇周年記念旅行、附柴権禰宜参加(翌日迄)。

一三日

大海神社月次祭、西角権禰宜奉仕。出雲大神宮宮司 岩田昌憲氏以下二名参拝。春日大社春日祭、岡権宮司参列。

一四日

住吉連合地域活動協議会講座、小出禰宜講師。

一五日

十五日祭、神武宮司以下奉仕。平安神宮一三〇年祭、神武宮司参列、小山手権禰宜随行。倉本和寛氏来社奉賛。

一六日

東京都港区乃木神社宮司 高山陽充氏参拝。住吉幼稚園修了式、

一七日

岡権宮司出席。本殿清掃。宮司以下参籠。特殊神饌調製。神種頒賜祭、赤松種苗(神種奉納、御田議員参列)。

折年祭(大祭、神武宮司以下奉仕。責任役員 小島康秀氏、常任総代 安藤美和子氏以下総代・崇敬者、御田講請元 瀧田孝氏、

一八日

大阪市農業協同組合 組合長田中聡氏・赤松種苗(株) 赤松恵氏以下参列。文楽「寿式三番叟」桐竹勘十郎氏(人間国宝)奉納。十八日会(当社開催) 生田神社・大阪天満宮・賀茂別雷神社・北野天満宮・多賀大社・長田神社・西宮神社・伏見稻荷大社・平安神宮・湊川神社・八坂神社各宮司参拝、清興・落語 桂米團治氏。皇學館大学学位授与式、加藤権宮司出席。大阪市立東粉浜小学校卒業式、小出禰宜出席。

一九日

日本曆学会総会(奈良県桜井市大神神社)、古館権禰宜出席。常任総代 安藤美和子参拝、退任挨拶。御文庫和本修復作業。

二〇日

皇靈祭遙拝、神武宮司以下奉仕。海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。招魂社春季例祭、加藤権宮司以下奉仕。神馬塚彼岸参拝、神武宮司・加藤権宮司参拝、高階禰宜・倉智権禰宜随行。千度講参拝(旧中在家東之町・安立連合・東粉浜連合各地区)。オリックスバファローズ必勝祈願、球団社長 馬殿太郎氏・GM 福良淳一氏・監督 岸田護氏以下参拝。東粉浜千度講、神武宮司・小出禰宜・山下 鈴木権禰宜参列。日本テレビ「秘密のケンミンSHOW」取材(二日迄)。

二一日

献詠俳句選者会、選者 森田純一郎氏 小杉伸一路氏選考。住吉祭神輿実行委員会、住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下役員・関係者、神武宮司以下出席。

二二日

土俵祭 昇神之儀、小出禰宜以下奉仕、立浪部屋参列。日本相撲協会大阪場所千秋楽幕内優勝力士表彰式にて霧島関に「住吉大社相撲道奨励賞」授与、神武宮司出向、武田 小山手権禰宜随行。立浪部屋千秋楽祝会、神武宮司・岡権宮司出席。西岩部屋千秋楽祝会、加藤権宮司・名村権禰宜出席。

二三日

横綱豊昇龍閣出数入奉納記念絵馬除幕式・立浪部屋御礼挨拶、立浪部屋親方 立浪耐治氏・横綱 豊昇龍智勝閣・明生力関来社。

二四日

中堅神職研修(神宮道場)進藤福山権禰宜参加(二八日迄)。

二五日

皇學館大学評議員会、加藤権宮司出席。疾走する哲学Aud i x Japan 響き合う美意識と革新の鼓動(境内撮影)。

二六日

すみよし反橋能実行委員会、小出禰宜出席。新規採用者研修(三一日迄)。

二七日

住吉踊・御祝講獅子参拝旅行(兵庫県神戸市湊川神社方面)、関係者一四〇名参加、万力禰宜以下引率。

二八日

浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。(一財)和歌文化国際協会代表理事 秦澄美枝氏来社、神武宮司面談。

三〇日

神道青年会理事会、西角権禰宜出席。

三一日

神武磐彦宮司退任奉告祭・加藤司郎宮司就任奉告祭。定例清掃。職員会議。

四月

- 一日 朔日祭、加藤宮司以下奉仕。本庁辞令…住吉大社権宮司・加藤司郎、住吉大社宮司に任ずる。吉田義洋、住吉大社権禰宜に任ずる。社内辞令…新採用 柳野真音・井邊就真を神人に、後藤月香・上村日陽梨・坂上莉夢・谷本七海・宮田旭を神楽女見習に各任ずる。授与所・祈禱受付にてPOSシステム導入。
- 三日 松苗神事・神武天皇祭選擇、加藤宮司以下奉仕。岸の姫松講講元 櫻坂修平氏以下講員（公財）住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏以下崇敬者、献詠俳句選者 森田純一郎氏 小杉伸一路氏、入選者参列。天位「松の苗植えて瑞鳥待つばかり」小林恕水氏・地位「地虫出づ」神事の鍬のその先に「阿部由紀子氏・人位」苗木植う祈りの一句奉り「塩見成子氏」。
- 四日 五社春季例祭、万力禰宜以下奉仕。兵庫県加西市北条住吉神社春季例大祭助祭、岡権宮司奉仕。BS団会議、西角権禰宜出席。
- 五日 宿院頓宮桜祭、岡権宮司以下奉仕、加藤宮司参列。BS一二三団上進式参拝。NPO法人堺観光ボランティア協会催事境内使用。住吉踊、住吉公園さくらカーニバル出演。
- 六日 正印殿祭、岡権宮司以下奉仕。乃木神社・靖國神社・東京大神宮・神田明神、加藤宮司参拝挨拶、高階禰宜随行。
- 七日 神社本庁宮司任命交付式、加藤宮司出席、高階禰宜随行。宮中参内、就任奉告御記帳。明治神宮・東郷神社・赤坂氷川神社参拝挨拶。大阪市立東粉浜小学校入学式、小山手権禰宜出席。中堅神職研修 神宮道場 滝沢 進藤権禰宜参加（一日迄）。神社庁権禰宜辞令交付式、吉田権禰宜出席。新入社員安全衛生教育研修会、柳野 井邊神人出席。草薙会近畿支部役員会、万力禰宜出席。
- 八日 加藤宮司、日枝神社参拝挨拶、帰社後、第一本宮参拝、職員に対して報告挨拶。住吉公園歴史探望編集会議、小出禰宜出席。労働・社会保険実務講習、中野禰宜・白井主事出席。
- 九日 種貸社例祭、倉智権禰宜以下奉仕。元伊勢保勝会三〇名参拝。どんぐり保育園、御田レンゲあそび。
- 一〇日 市戎大國社月次祭、川畑禰宜以下奉仕。港住吉神社楠玉稲荷社例祭、高階禰宜以下奉仕、加藤宮司参列。兵庫県佐用郡神社総代会会長 藤岡照一氏・神職会会長 三村吉久氏以下四三名参拝。愛知県神社庁名古屋緑南支部支部長 亀垣昌一氏以下約一二〇名参拝。住吉幼稚園入園式、武田権禰宜出席。故末廣貞子氏（株）うどんや風一夜葉本舗、神武名譽宮司・加藤宮司・高階禰宜・武田権禰宜弔問。
- 二日 卯之日祭、加藤宮司以下奉仕。杉谷乗馬クラブ大阪グランプリ・スプリング大会、加藤宮司・高階禰宜表敬訪問。初辰祭、万力禰宜以下奉仕。絵画クラブハチの会写生会境内使用。
- 三日 大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。住吉大社セミナー「阪神タイガースと甲子園の歴史」武庫川女子大学名誉教授 丸山健夫氏講演。神社庁第九支部役員会、岡権宮司出席。大阪府風土木事務所所長 伊東寛之氏・住吉公園事務所所長 福田成江氏他信任挨拶来社。
- 四日 鉾社例祭、万力権禰宜以下奉仕。一万人のお宮奉仕団境内清掃奉仕。
- 五日 十五日祭、加藤宮司以下奉仕。おいとしぼし社春季例祭、倉智権禰宜以下奉仕。港住吉神社氏子総代会、夏祭実行委員会、高階禰宜出席。神稜講定例参拝。
- 六日 廣田神社・生田神社・長田神社・湊川神社・西宮神社、加藤宮司参拝挨拶、高階禰宜・小山手権禰宜随行。大阪商工会議所講座研修、和泉・古澤主事補参加（翌日迄）。聖愛クロス保育園、御田レンゲあそび。
- 七日 泉州キワニスクラブ講話、岡権宮司講師。モンゴル国アルタイ・エンヘアマガラン在大阪総領事送別会、岡権宮司・宮崎権禰宜出席。
- 九日 石清水八幡宮・伏見稲荷大社・近江神宮・多賀大社、加藤宮司参拝挨拶、高階禰宜随行。宿院頓宮会計監査会、岡権宮司出席。若柳吉翔氏舞踊公演楽屋見舞、小出禰宜・山下権禰宜訪問。
- 二〇日 すみよし博覧会「レンゲdeすみ博」境内催行。海上交通安全祈願祭、高階禰宜以下奉仕。島津忠久公誕生記念祭、岡権宮司以下奉仕、加藤宮司以下参列。大阪護国神社、加藤宮司参拝挨拶、武田権禰宜随行。すみよし反橋能実行委員会、小出禰宜出席。
- 二二日 賀茂別雷神社・賀茂御祖神社・北野天満宮・平安神宮・八坂神社、表千家不審菴・裏千家今日庵・久田家半床庵、加藤宮司参拝挨拶、武田権禰宜随行。東京正眼会四十周年記念総会、高階禰宜・宮崎権禰宜出席。
- 二二日 檀原神宮・大神神社・春日大社・枚岡神社・坐摩神社、加藤宮司参拝挨拶、武田小山手権禰宜随行。
- 二三日 賀茂御祖神社 新木名譽宮司長老敬称と友田宮司就任を祝う会、加藤宮司出席、小山手権禰宜随行。宿院頓宮総代会、岡権宮司出席。南海電気鉄道新観光列車GRAN天空試乗会、岡権宮司出席。職員健康診断。
- 二六日 港住吉神社氏子総代会・夏まつり実行委員会、高階禰宜・名村権禰宜出席。
- 二八日 浅沢社月次祭、高階禰宜奉仕。故寺井種伯氏葬儀（大阪天満宮名譽宮司）、神武名譽宮司・加藤宮司弔問。宮司以下参籠。
- 二九日 昭和祭（中祭）、加藤宮司以下奉仕。御田植神事打合会、加藤宮司以下出席。住吉踊保存後援会支部長会、山下権禰宜以下出席。水江東宮氏個展、加藤宮司・進藤権禰宜観覧。
- 三〇日 定例清掃。職員会議。全国弓道大会前日直会、弓馬術礼法小笠原教場一門・日本弓道連盟・大阪府弓道連盟有志・加藤宮司以下出席。住吉銘菓「さつま焼」末廣堂、本日をもって閉店。

令和八年

短歌

住吉大社 新年献詠祭

(二月十五日)

後援…産経新聞社 協賛…末廣堂
選者…安田 純生、佐沢 邦子、香川 ヒサ

天位

孫五人どの子も絵筆持つが好きばあは夢見るファミリ―展を

和歌山県橋本市 浦木 逸子

(評) 明るく暖かい歌。読む者もまた、そんなファミリ―展が開催できればいいのにとと思う。

地位

じいちゃんの育てた馬に乗ってみるなにか良きことありそうな年

兵庫県宝塚市 今北 渚

(評) 午年にふさわしい歌。じいちゃんの育てた馬であるゆえに、いっそう「良きこと」がありそうに思えるのであろう。

人位

農作業後妻と互いを労いて氷菓ひとつをふたりして食む

愛知県蒲郡市 石田 賢吾

(評) 仲のよい夫婦、というよりも、信頼しあっている夫婦の姿が彷彿とする。

佳作

面を脱ぐ火照った顔の引き締まる寒稽古終え礼をする子の

埼玉県 若山 巖

沖泊りの鮪漁船の点々と灘の波間に射す初日あぶ

大阪府 向井 靖雄

指図する妻を背にして輪飾りを戸口の上に背伸びして掛く

埼玉県 榎島 茂

初詣お御籤一緒に引きながら貴方の笑顔がすでに大吉

茨城県 松本 康恵

「おかへり」と写し絵の父母に迎へられ生家に一人新年祝ふ

北海道 藤林 正則

凧揚げに興じる児らと青空を見上げるだけで平和な気分

神奈川県 北村 純一

軒毎に四手ゆるる町をたもとほる沖のブリ起しの雷を聞き

山口県 森元 輝彦

『ゆうすげ』の御本を開き厳かに音読すれば春光の降る

神奈川県 北見 美保

願ひ事両手に抱へ参道を小走りでゆく初辰参り

兵庫県 村津 初美

草刈のあとの窪みに鳩一羽啄むでもなく眠るでもなし

大阪府 佐藤 遵子

(総評)

新年献詠祭にふさわしい内容の歌が多く、楽しい気分を選をすることができた。(安田 純生)

令和八年

俳句

住吉大社 松苗神事

(四月三日) 献詠俳句

協賛…末廣堂
選者…古賀しぐれ、森田純一郎、
小杉伸一路

松の苗植ゑて瑞鳥待つばかり

兵庫県川辺郡猪名川町

小林 恕水

(評) 松苗神事のことを詠んだ句である。住吉大社の境内に植樹して松の生育を祈る神事を終え、後は瑞鳥、つまり鶴などのめでたい鳥が来ることを待つというめでたい句である。

地虫出づ神事の鍬のその先に

奈良県大和高田市

阿部 由希子

(評) この句も松苗神事の光景を詠んだ句だ。神事では鍬で土を掘って松苗に掛けるが、鍬の先に地虫が出て来たことを発見して句に詠んだ新鮮な写生句である。

苗木植う祈りの一句奉り

大阪府泉大津市

多田 羅紀子

(評) 江戸時代に社前の松原が枯れ始めたことから「松苗勧進」を行って献木をしたという神事は緑化運動の先駆けである。環境を守り、平和を祈りつつ松苗を植えるのである。

佳作

松風は神の声とも苗木植う

兵庫県

塩見 成子

大神の幾千代の杜緑立つ

和歌山県

山本 容子

住吉の松より春の動き出す

兵庫県

出店 智恵呼

献詠は心の正座松苗祭

和歌山県

松本 美那子

植うるまで神前に坐す松の苗

大阪府

稲垣 美知子

木挽唄口遊みつつ苗木植う

島根県

吉浦 増

植うを待つ松苗匂ひ放ちけり

兵庫県

広田 祝世

住吉の松の百景風光る

大阪府

高田 佐土子

諸鳥の杜になれよと苗木植う

兵庫県

黒岩 恵津子

扇にて斎く神楽女風光る

鳥取県

永江 久美子

(総評)

俳句はこれまでにものすごい数のものが作られています。殊にこの松苗神事のような一つの行事について詠まれる句は、どうしても似通ったものが多くなります。それを避けるためには先入観をなくし、自分の目で見たものを詠む、いわゆる写生することが大切なことだと思います。

(森田 純一郎)

短歌と俳句の献詠募集

【要領】 作品は一人様ごとに短歌2首あるいは俳句2句まで

詠題は自由、神前にふさわしい自作の未発表の作品に限る

【書式】 楷書(ふりがな)で、郵便番号・住所・電話番号・氏名(ふりがな)

【注意】 判読不能の作品や、神前に相応しくない内容、要領によらない投稿は選考の対象から除外することがあります

【締切】 新年献詠祭(短歌) 11月末日

観月祭(短歌・俳句) 7月末日

【表彰】 選考後に通知、祭典招待、当日に神前奉納および賞状贈呈

【宛先】 〒558-0045 大阪市住吉区住吉2丁目9番89号 住吉大社献詠係

松苗神事(俳句) 2月末日

※当日消印有効

住吉大社吉祥殿だより

写真室のこだわり

人生を彩る「祝い」を写す



その日の空気、笑顔、晴れ姿。

住吉大社吉祥殿の写真室は、人生の節目に寄り添いながら
未来へ残る一枚を届けています



ご家族の物語を、住吉大社の風景とともに。

住吉大社吉祥殿写真室では、お宮参りや七五三詣、ご婚礼をはじめ、人生のさまざまなお祝いの節目に寄り添いながら撮影を行っています。ご家族それぞれのライフストーリーに寄り添い、その大切な時間を写真として残していくことは、私ども写真室にとって大きな喜びです。

撮影には、スタジオでのフォーマルな記念写真をはじめ、住吉大社境内でのロケーション撮影があります。なかでもご好評をいただいているのが、四季折々の美しさを見せる住吉大社境内でのロケーション撮影です。やわらかな自然光や、その日の空気感までも写真に残せるのは、この場所ならではの魅力。移ろう季節の風景とともに、ご家族の物語を丁寧に写し続けています。



和やかで温かな、スタジオという空間。

緻密なライティングと美しいポーディングによって生まれる、格調高いスタジオ写真。お宮参りでは、境内でのロケーション撮影とあわせて、スタジオでのフォーマルな記念写真を希望されるご家族も多くいらつしやいます。赤ちゃん撮影では、ご機嫌や体調に細やかに気を配りながら、ご家族みなさまと一緒に新しい命の誕生を祝う気持ちで、和やかに撮影を進めています。ご家族の温もりや愛情まで写真に写し込めるよう、心を込めて撮影しています。

その日の空気を思い出にする、ロケ撮影。

「写真は少し苦手」「緊張してしまう」という方にも好評なのが、住吉大社境内でのロケーション撮影です。四季折々の自然や歴史ある風景に包まれた境内は、どこを切り取っても美しい撮影スポット。境内を一緒に巡りながら、会話を重ね、やわらかな表情や自然な瞬間を大切に写し取ることを心がけています。



伝統美を美しく写す、写真室の技術。

特別な日の晴れやかな装いが、未永く心に残る格調高い記念写真となるように——和装の美しい見せ方や整え方、自然で品のあるポーディングへ導くことも、写真室に受け継がれる大切な技術のひとつです。襟元や袖の細かな乱れにまで目を配りながら、長年培ってきた熟練の技術と専門知識を生かし、和装の美しさを丁寧に写し出しています。

TOPICS

安産祈願「戌の日まいり」に記念のチエキ撮影。

安産祈願の「戌の日まいり」の記念に、境内でチエキ撮影を行っています。撮影した写真はオリジナル台紙に入れてその場でお渡し。お参りの記念品としても喜ばれています。



飾って楽しむ、新しいカタチアクリルスタンド。

七五三や結婚式など、大切な記念日の写真をアクリルスタンドとして残せる人気のアイテム。お部屋に気軽に飾れる可愛らしさが魅力です。



住吉大社で残す、未来の宝物。

住吉大社という特別な場所ので、ご家族の人生の節目に寄り添いながら、一枚一枚を大切に撮影しています。伝統的な記念写真の価値を大切にしつつ、新しい写真の楽しみ方もご提案しながら、未来に残る一枚を、これからも心を込めてお届けしてまいります。

住吉大社吉祥殿 写真室

摂社 船玉神社 並 若宮八幡宮 金屏

令和8年2月9日

株式会社小西美術工藝社様 奉納

住吉大社摂社である船玉神社と若宮八幡宮は、令和7年3月24日付で大阪府指定有形文化財（建造物）となりました（社報45号既報）。

この両社殿は平成24年に屋根修理及び塗装工事を行い、塗装工事を株式会社小西美術工藝社（東京都港区）に施工いただきました。しかしながら、扉絵については経年による劣化が進んでいましたが、

この時は手が及びませんでした。そこで、施工後に小西美術工藝社より、この金屏を複製し奉納したいという大変有難いお申し出があり、此度複製金屏が完成いたしました。扉の取付け施工もご奉仕をいただき、代表取締役社長 デービッド・アトキンソン氏以下関係者参列の下、両社それぞれの御神前にて厳粛に奉納奉告祭を執り行いました（なお、古い扉は収蔵し、保存いたしております）。

光輝きます金屏のご奉納により、更なる御神威のよみがえりとなりました。ぜひ住吉大社にご参拝の折には、両摂社もお参りいただき、新たな扉絵も拝観ください。



若宮八幡宮



船玉神社



安産祈願

妊娠5ヶ月目に赤ちゃんを授かった御礼と
安らかに生まれますよう神様にお祈りいたします

戌

の
日
まいり

住吉
大社



住吉大社

令和8年(2026) 6月15日発行(年2回発行)

発行人 加藤司郎 発行

住吉大社

住所

大阪市住吉区住吉2丁目9番89号

Tei

06・6672・0753

印刷 真生印刷株式会社